

本の紹介

トランスジェンダーの時代

性同一性障害の現在
虎井まさ衛
2003年 星雲社



アメリカで女から男へ性転換手術を受けた著者の経験や見聞、啓蒙活動などがまとめられています。混同されがちな性的指向（どちらの性を好きになるか）と性自認（その人が自認する性別）の違いが丁寧に比較されていたり、手術に至るまでの苦悩や日本の現状などが当事者の立場から書かれています。

国内での性転換治療の開始や、戸籍上の性別変更を認めようという動きがあるなど、日本の状況も変わってきています。しかし周囲の理解がなければ私たちの人権に光は当たらないと強く訴えています。

(成田)

タンタンタンゴはパパふたり

文 ジャスティン・リチャードソン&ピーター・パーネル/
絵 ヘンリー・コール/訳 尾辻かな子、前田和男
2008年 ポット出版



この絵本は実話です。
動物園で暮らすオスのペンギンのロイとシロ。互いに想いが重なり家族になりました。
2羽は他のペンギン達と同様に巣を作り、交互に卵を温め始めます。でもそれは石の卵。それを見た飼育員は2羽にある贈り物を作ります。

さてロイとシロは家族を増やすことができますでしょうか。
周りのペンギンたちは2羽を、自然に捉えています。愛のかたちも家族のかたちもさまざまで良い。ペンギンたちが教えてくれます。(河原)

カミングアウト・レターズ 子どもと親、生徒と教師の往復書簡

RYOJI+砂川秀樹*編
2007年 太郎次郎社エディタス



題名の通り、カミングアウトを振り返る手紙、カミングアウトをする手紙、それに対する返事が収められている本です。ゲイやレズビアンの人たちだけでなく、他のセクシュアル・マイノリティの人たちや、悩みをかかえているさまざまな立場の人たちにぜひ読んでほしいと思います。たくさん思いやメッセージが心に響いてきます。(安井)

わたしはあかねこ

作 サトシン/絵 西村敏雄
2011年 文溪堂



「わたしはこのいるきれいでかわいくってすきだったの」
他のみんなと違う色だけど、赤が好き。主人公は赤い猫。「自分を好きになることが生きる礎になることを表現したかった」と作者。人の多様性を理解し自己肯定感をはぐくむ絵本。(筑紫)

※上記の本はアイレックで借りることができます。

国際的な動き

同性の結婚を認めているのは下記の国など、約22か国。反面およそ76か国において、同性愛が差別的な法律で犯罪と定められ、逮捕や迫害、投獄され、さらに少なくとも5か国では死刑判決さえ受けかねない状況に置かれています。(国際連合広報センターホームページより)

国際的な人権動向としては、2006年インドネシアのジョグジャカルタの国際会議でセクシュアル・マイノリティの人権を保障するためのジョグジャカルタ原則が採択され、2007年国連の人権理事会で承認されました。また、2013年、国連の人権理事会で性的指向や性自認に関する差別への取り組み強化を勧告された日本政府代表は同勧告の実現を誓約しました。

日本政府観光局の英語のホームページで日本のLGBTフレンドリー観光地を紹介しています。
<http://www.japantravelinfo.com/lgbt/>



エストニア ルクセンブルク ニューージーランド ブラジル カナダ オランダ アイルランド 米国 ウルグアイ フランス スペイン